

平成23（2011）年11月1日

創立80周年記念号

兵庫県図書館協会 80 周年に寄せて

（社）日本図書館協会 理事長 塩見 昇

兵庫県図書館協会の創立 80 周年、おめでとうございます。この一、二年、山口県、神奈川県などで県協の 100 周年、80 周年といった記念事業が行われてきました。日本図書館協会も来年に創立 120 年を迎えますが、100 年前後の足跡を考えると、そこには三世代くらいの先人の労苦が積み重ねられており、特に戦争時代を挟んでいることから、この間の苦勞のほどが偲ばれます。

兵図協の結成は 1931 年 11 月であり、1942 年から 49 年まで休会状態が続いたと記録にあります。長きにわたって県域の協力・連携の要にあたる県立図書館が不在という特異な事情を抱えた兵庫県で、戦中・戦後初期の混迷期に県図協の活動が停止せざるを得なかったのは、無理からぬことでもあったでしょう。1961 年に兵図協として県立図書館設置の陳情に取り組まれたのは、そうした事態の是正を急務と意識されてのことであったかと拝察します。

この数年間の兵図協の会報を拝見すると、大規模な自治体合併の進行を受けて、これまで他団体であった複数の図書館が、同一自治体のサービス組織を構成するものとして一体の運営・活動を行うことになったことで対応や展開、成果のほどがいくつも報告されています。また、学校支援の活動に力を向けているとの報告も散見されます。

今年は 3 月の東日本大震災による大変な被災への対応として、全国的な規模で図書館・図書館団体による支援が追求され、図書館の組織的連携が備える力の有効な活用がみられました。先に阪神・淡路大震災の経験を持つ兵庫からも、その経験をふまえた支援活動がなされてきました。

それらのことから明らかなように、図書館事業は

単一、個別の図書館だけの力にとどまらず、設置母体や館種を越えたより大きな連携・協力を本質的な特性とする活動です。知識基盤社会の基礎的なインフラ、地域の情報拠点といった図書館像の具現化には、それぞれに特徴を備えた各種図書館が、一つの共通な目標に向け力を結集することが重要です。

2008 年に全国図書館大会を兵庫県で開催していただいた際には、大学図書館、学校図書館、専門図書館など各種図書館（団体）の積極的な協力により、県をあげての取組みをつくり、大会を成就させて頂きました。館種を越えた連携のたしかな萌芽が生まれたことかと思います。それを一層恒常的な力としていく上で、県図協のこれからに大きな期待が寄せられます。

現在の兵庫県図書館協会は、一部の専門図書館を構成員としていますが、実態として公共図書館の協会となっています。県民の暮らしや仕事、学びの全面にわたって、必要とされる多様な資料・情報ニーズに応えていくために、各種の図書館や情報提供機関が相互に協力し、連携することで図書館総体の力を大きくし、有効なサービスを提供する体制を構築していくことが強く期待されています。

創立 80 周年を迎えられた兵図協が、そうした新たなサービス展開の要、推進力としての組織的な活動を展開されることを強く期待したいと思います。

日本図書館協会は来年、新たな公益認定法人を目指しますが、その際には総会に代わる代議員制を採用し、代議員には県域の会員を代表して協会運営に責任を担っていただく組織になります。兵図協がそのための基盤づくりの役割を担っていただけると有難い、とも考えております。貴協会ますますのご発展、ご活躍を祈念いたします。

図書館現場からの発想と声を！

直井 勝（なおい まさる）

図書館協会創立 80 周年おめでとうございます。

私の図書館勤めは 1965 年の大阪市立中央図書館が始まりですが、当初から図書館の意義を理解し働きたいという思いがあったわけではありません。飯のタネのひとつぐらいにしか考えていなかったのです。

その後、図書館に夢中になるのですが、それは図書館現場の先輩たちから「民主的な暮らしには図書館が必要であり」、「そのためには自由に知ることが大切である」と教えられ、その道筋は「住民とともに」であると示された時からでした。中でも子ども文庫のお母さんから、「住民とともに」に必要なことは図書館員自身が図書館の意義を十分に理解し、その上で住民と話し合うことが「ともに」の中身であると言われたことが今でも脳裏から離れません。目から鱗でした。

それから 30 年。兵庫県の図書館にお世話になったのは 1995 年の滝野町図書館が始まりです。ここでは公共図書館の本質的な機能は資料（情報）提供（貸出を主軸に）であり、その上、図書館員は利用者自身が一番適する資料を選ぶ手助けをするところであるとする図書館を目指しました。

昨今、図書館に限らず「住民参画」という言葉が飛び交っています。図書館の正規職員率も下がり、一方では「貸出はもう古い、課題解決型のサービスを」と模索する図書館も出てきているようです。

図書館はどこに行くのでしょうか。「誰が、誰のために、何をするとところか」を図書館現場で話し合うことが、今一番求められているような気がしています。

（元・滝野町図書館長、加東市中央図書館長）

ボランティアとして図書館とかかわりながら

橋本 しげみ（はしもと しげみ）

本が好き、図書館大好きな私にとって、今とても幸せで楽しい時です。会報 96 号に和藤達也館長が寄稿されておりましたが、2005 年に 1 市 5 町が合併して新豊岡市になったのを機に、各地域の分館が整備され 6 館がネットワークで結ばれたのです。本・文字・ことばを通して過去・現在・未来を結び、人と人を結ぶという図書館の大切な役割が生きた形で広がっていく、そんなうれしい予感がしています。

地元豊岡の市民会館の 4 階で第 1 回“兵庫県立図書館まつり”が開催されたのは、1986 年のことでした。図書館界では、すでに新しい流れに向かって大きく動き出していた時期でしたが、「図書館の図書館」としての県立図書館の存在との出会いは、当時暗中模索状態にあった私にとって闇に光でした。

県立や兵図協主催の講座・研修に参加し、先輩館長の皆さんとの交流や、各館の見学からも体験的に多くを学びました。図書館は生涯学習の拠点と言われますが、まさに“学ぶこと”に目覚めさせてもらったという感じでした。あのとき基本理念や実践的技術を学んだことは、現在、ストーリーテリングや読み聞かせのボランティア活動を楽しく続ける支えになっています。学ぶことの楽しさを知るとは、図書館ボランティアの基本であり、ともに育ち合うのがボランティアの仲間だと思います。そうした仲間と一緒に活動を続けながら、感謝をこめて 80 周年の記念に一筆寄せさせていただきました。

（元・豊岡市立図書館長）

創立 80 周年をお祝いして

篠山市立城南小学校 校長 宮田 正彦（みやた まさひこ）

「一粒の砂に世界を見、一輪の野の花に天国を見る。掌（たなごころ）のうちに無限を掴み、一瞬に永遠を知る」
大好きな童話作家あまんきみこさんが愛する英国詩人ウィリアム・ブレイクの有名な言葉です。

錦秋の季節を迎えると、夕陽が映える美しい木々に囲まれた煉瓦づくりの県立図書館の勇姿が今も目に浮かびます。また、兵図協創立 60 周年記念誌の編集に携わった頃を懐かしく思い出します。協力課においてワイワイ言いながら毎日毎日が活気あふれる賑やか職場でありました。

兵庫県図書館協会創立 80 周年、誠におめでとうございます。「八（はち）とは開く義なり」という言葉があるように、貴協会も今後 90 周年に向けて益々発展されることを願ってやみません。

たくさん子どもたちと接する中で思うことですが、もともと本が嫌いな子どもはいません。嫌いになったのは読んでくれる人がいなかったか、テレビばかり見せられていたか、本嫌いにさせる大人がいたのかもしれませんが。電子辞書より辞書を、電子ブックより本を読む活動が子どもの脳を活性化させることは事実です。

学校図書館の蔵書数はまだまだ少ないですが、子どもたちに夢と希望を与える絵本や図書を増やすことが私の仕事と決め、県立図書館に負けないくらい、日本一の学校図書館をめざして全力投球でがんばります。

（元・兵庫県立図書館 兵庫県図書館協会事務局担当）

兵庫県図書館協会創立 80 周年、おめでとうございます。80 年の永きにわたり協会を支え発展に尽くされた諸先輩の熱意と努力に敬意を払わずにはおれません。

私は昭和 57 年に宝塚市立図書館に司書として就職し、その後縁あって三田市立図書館の立上げに従事しました。当時を振り返ると苦労もありましたが充実した日々でした。市民に役立ち愛される図書館を造りたいとの関係者の思いと努力が実り、日本図書館協会建築賞優秀賞と（社）日本公共建築協会の優秀賞を受けました。

忘れられないことの一つは、阪神広域行政圏協議会の事業で阪図協が平成 3 年にスターさせた広域利用です。今ではすっかり定着し多くの方に利用されていますが、当時としては先進的な取組みで、この制度が動くまでには 5 年余の歳月がかかりました。各館との調整がつかず途中で協議が中断し、実現が危ぶまれたこともありました。

もう一つは阪神淡路大震災です。3 月に東北地方を巨大地震と大津波が襲いました。被災地の図書館は今どのような状況にあるのでしょうか。16 年前の大震災では県下の多くの図書館が被災し、阪図協加盟館のほとんどが長期間の休館を余儀なくされました。図書館が避難所になったところもありました。図書館員も災害対応や被災者支援に従事し、図書館の再開どころではありませんでした。阪図協も機能停止してしまいました。やむを得ない状況とはいえ、何かできることがあったのではないかと、悔まれてなりません。

近い将来、東南海・南海地震の発生が懸念されています。兵図協として、16 年前の体験を風化させない取組みと、広域に及ぶ災害はもとより単館レベルの災害に対しても、しっかりとした支援ができるよう備えておく必要があるのではないのでしょうか。思い出話がいつの間にか兵図協への注文になってしまいましたが、90 周年・100 周年に向けて益々の発展をお祈りいたします。

(元・宝塚市立図書館、三田市立図書館長)

協会からのお知らせ

創立 80 周年記念助成事業

- ・佐用町立 開館 10 周年記念事業「あさのあつこさん講演会」6 月 5 日（日）
- ・伊丹市立 絵本講座「子どもはみんな絵本が大好き」講師：森ゆり子氏 10 月 12 日（水）、19 日（水）
- ・丹波市立 丹波市こども読書推進講座「絵本を通して豊かな子育て」講師：井下陽子氏 11 月 12 日（土）、26 日（土）
- ・川西市立 中央図書館開館 20 周年記念講演会「清和源氏と和歌」講師：小倉嘉夫氏 11 月 5 日（土）
- ・太子町立 折り紙を楽しむ会 講師：倉金真弓氏 10 月 30 日（日）、1 月（予定）
- ・西播磨図書館連絡協議会 研修会「電子書籍の現状と公共図書館の役割」講師：湯浅俊彦氏 11 月 30 日（水）
- ・西宮市立 図書館職員のための人に優しい接遇研修 講師：中島正教氏 12 月 5 日（木）
- ・神戸市立 中堅職員研修「地域に即したサービスの立案と実践—愛媛プロスポーツアーカイブズの立ち上げを中心に」講師：天野奈緒也氏 12 月 15 日（木）

事業企画委員会を開催しました

7 月 28 日に開催、創立 80 周年記念事業については、『兵庫県図書館協会 10 年のあゆみ：創立 80 周年記念誌』を予定どおり刊行すること、県内図書館マッ

プの作成は別途検討すること、記念事業助成申請のあった 8 団体について助成が妥当であるとししました。全国図書館大会剰余金については、これまでの経緯をふまえ、数カ年計画で趣旨にかなった事業への助成を実施する方向となりました。

読書推進運動協議会の優良読書グループ表彰

伊丹市立図書館からご推薦の図書館読み聞かせボランティア「おはなしかご」（代表・松林和子）が、11 月 3 日に表彰を受賞しました。

絵本ワールド in ひょうご 2011

平成 23（2011）年 12 月 3 日（土）・4 日（日）
神戸海星女子学院大学（神戸市灘区青谷町 2-7-1）
上映・講演会「笑顔でいきんしゃい！」島田洋七氏、講演会「ぼくが絵本作家になった理由」たかひよしかず氏、人形劇団クラルテ、ワークショップ、なんでも子どもの本ライブラリー など

兵庫県図書館協会第 1 回研究集会

日時：平成 23（2011）年 12 月 16 日（金）14 時～16 時
会場：いたみホール 3 階大会議室
テーマ：電子書籍の現状と図書館での対応について
講師：湯浅俊彦（立命館大学文学部準教授）
運営：阪図協・伊丹市立図書館

神戸市立図書館

- ・須磨図書館に YA コーナー設置 (1 月)
- ・三宮図書館の返却ポスト拡張 (8 月)

ひょうご労働図書館

- ・中央労働センター耐震工事終了、新装開館 (4 月)
- ・小泉八雲コーナーを増設、著作集を展示 (8 月)

尼崎市立図書館

- ・北図書館に指定管理者制度を導入 (4 月)

西宮市立図書館

- ・図書館システムとホームページをリニューアルし、蔵書検索、予約機能を充実 (10 月)

伊丹市立図書館

- ・西分室をイオン伊丹昆陽ショッピングセンターの 2 階に開設 (3 月)
- ・新図書館 (来年 7 月開館) に向けて IC タグ貼付開始 (9 月)

川西市立中央図書館

- ・開館 20 周年記念展示「20 年のあゆみ」(4 月～)

宝塚市立図書館

- ・返却ポイント新設 (4 月に 5 ヶ所、6 月に 2 ヶ所)
- ・子ども向けホームページの開設 (7 月)
- ・山本南分室を東公民館の 1 階に開設 (7 月)
- ・夏休み特別企画「真夏の夜の図書館」「図書館がお化け屋敷に!？」開催 (7・8 月)
- ・予約図書の郵送貸出開始 (8 月)
- ・ブックスタート事業開始、4 ヶ月児検診会場で絵本を 1 冊プレゼント (8 月)

三田市立図書館

- ・大型絵本コーナーの設置 (4 月)

猪名川町立図書館

- ・町内在住者対象のインターネット予約サービス開始 (10 月)

明石市立図書館

- ・図書館システムの更新 (1 月)

加古川市立図書館

- ・携帯電話サイトからの予約受付開始 (7 月)

高砂市立図書館

- ・新図書館構想策定委員会開催 (6～11 月)

稲美町立図書館

- ・休館日変更 (毎週月曜、第 1 火曜、第 3 日曜→第 1, 3 月曜、第 1 火曜 祝日のときは翌平日) (4 月)
- ・夏期期間の開館時間変更 (21 時閉館→20 時閉館)
- ・図書館システムの更新 (12 月)

三木市立図書館

- ・三木樹交倶楽部、吉川町商工会青年部、三木城主別所長治子孫さんから図書・絵本など受贈「カブトムシ文庫」、「長治文庫」に (1～2 月)
- ・おはなし会の開催を月 2 回から毎週土曜に (4 月)
- ・青山図書館開館 1 周年記念行事 (6 月)

西脇市立図書館

- ・夏休み期間の月曜も開館、開館時間を早めて 9 時に (7～8 月)

多可町立図書館

- ・八千代分室を八千代コミュニティプラザ (旧八千代公民館) 内にリニューアルオープン (5 月)

姫路市立図書館

- ・第 2 次姫路市子ども読書活動推進計画策定 (3 月)
- ・学校図書館支援講座「図書の修理講座」(7 月)

福崎町立図書館

- ・子どもの読書推進計画策定委員会の発足 (8 月)

相生市立図書館

- ・コンピュータシステム更新 (3 月)

赤穂市立図書館

- ・市制 60 周年、新館開館 10 周年記念 世界の名作絵本展 (国際アンデルセン賞受賞者作品、IBBY 推奨の絵本展示) (10～11 月)

豊岡市立図書館

- ・日高分館の金曜日の閉館時間を 19 時から 18 時に変更 (10 月)

朝来市和田山図書館

- ・祝日の翌日休館を廃止 (試行・4 月)
- ・書庫の増築 鉄骨平屋 90 m² (7 月)

新温泉町立図書館

- ・移動図書館車「ささゆり号」を新車に更新 (10 月)

養父市

- ・「養父市子どもの読書活動推進計画」策定 (3 月)
- ・養父公民館図書室リニューアルオープン (7 月)

丹波市立図書館

- ・「丹波市子ども読書活動推進計画」策定 (1 月)
- ・利用者用インターネット端末 2 台を中央に設置 (5 月)
- ・貸出冊数を 6 冊から 10 冊に、予約冊数を 5 冊から 8 冊に増加 (10 月)

洲本市立図書館

- ・電子書籍リーダー (iPad) 導入 (5 月)
- ・洲本出身の画家山田嘉一郎氏の絵画が寄贈される (5 月)

南あわじ市立図書館

- ・図書館システム更新 (12 月)

芦屋市立、猪名川町立、稲美町立、たつの市立龍野

- ・「24 時間テレビ」より障害者サービス用機器 (拡大読書器・DAISY 再生機など) を受贈 (6～8 月)

兵庫県図書館協会会報 No.97 創立 80 周年記念号

平成 23 (2011) 年 11 月 1 日発行

編集・発行: 兵庫県図書館協会

〒673-8533 明石市明石公園 1-27

兵庫県立図書館内

Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500

E-mail: hyotokyo@library.pref.hyogo.jp

